

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名	グループホーム心から
日付	平成16年12月13日
評価機関名	社会福祉法人 岡山県社会福祉協議会
評価調査員	居宅介護支援事業所等での痴呆性高齢者介護歴 3年 病院での痴呆性高齢者の看護・介護業務歴 17年
自主評価結果を見る（事業所の自主評価結果にリンクします）	
評価項目の内容を見る（岡山県の定めた評価項目へリンクします）	
事業者のコメントを見る （評価結果に対する事業者の改善状況についてコメントがあります！）	

外部評価の結果

概評
全体を通して（特に良いと思われる点など）
<ul style="list-style-type: none"> ・手作りの物が色々あり、木のぬくもりや紙の作品、墨の作品があり心が和みました。 ・毎日の生活の中に（身体面・心理面における）リハビリ体操を取り入れ、音楽と共に利用者がよく自然に参加できるよう考え、実行しています。 ・地域と家族・利用者との連携が良く、また、地域住民から電話相談や季節の野菜なども良く届いており、近隣と友好的な関係が築かれている。 ・緊急連絡網・事故時の対応マニュアル、グループホームの目標などを常に話し合い、利用者にも迷惑となったり困らない様に、必要なものはカードに入れ携帯して職員が持っています。 ・トイレの入り口ドアが半回転で広く開閉できるため、利用者にとって排泄がスムーズに危険なくできています。 ・医療的な面、特にリハビリについてはしっかりとバックアップできています。 ・職員配置が男女半数ずつであり、温かい雰囲気を感じられ、入居者の方々も大変楽しんでいらっしゃいました。
特に改善の余地があると思われる点
業務内容の見直しを行う際に、次のことについても検討なさってはいかがでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・入居者の方の行動について、細かく記載されていることは評価できますが、そのことにより、入居者と関わる時間が少なくなっているように感じました。簡便な記録方法とするなど見直しをされてはいかがでしょうか。 ・朝と夕食のみグループホーム内で作り、昼食は業者に任せて温めるようにされていました。さらに、利用者の意見を生かされた献立づくりをなさるとより良いのではないのでしょうか。 ・個別の支援、特に排泄の支援について、入居者個々の状況に応じた適切な支援がなされるよう、検討が必要ではないのでしょうか。

運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	生き生き体操に音楽を取り入れるなど、和やかに、極自然に、ゆったりと誰でも参加できる様に、グループホームとしてリハビリをしっかりと考えられており取り組まれています。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間づくり		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の環境づくり		
4	建物の外周リや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームの中に、やさしい音楽を流し、心が和むように工夫してありました。また、利用者の得意としている塗絵、習字、漢字を書いたり、計算したり、琴などが弾けるように配慮してありました。 ・畳、イス、テーブルも何時でも使用できるように設置しており、寝転がったり足を伸ばしたりされていました。また、リビングの畳は移動式になっており、行事に合わせて移動できるように工夫してありました。 		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

ケアサービス（つづき）

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の生活歴を家族から情報収集し、趣味などグループホームでの生活にいかせるように支援している。例えば、和琴が得意であった方には、その経験が生かせる場面を提供するとともに、他の入居者も参加するなど、全ての入居者が楽しめるような取り組みに配慮されています。 ・プライバシー保護のため、個人的な内容は訪室した時の話題にするよう心掛けています。 ・入室の際には、かならずノックや声をかけし、同意を得ています。入浴時、オシメの取替えの時には、はずかしめを与えないように配慮がなされています(男性の職員は嫌と云う人には、女性が行うようにしています)。 		

運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
	<ul style="list-style-type: none"> ・常に利用者のことを考え、問題発生予防と情報を取り入れるように関心、見る気持ち、話す機会を得るように努力しています。 ・グループホーム全体のレベルアップを考え、いろいろな問題を事業所内のみで終わりにせず、倉敷市内の他のグループホームにも情報提供し、横の連携を図りながら、共通問題として取り組むことができるよう目指しています。 		